

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19320013

研究課題名（和文） 中近世ヨーロッパのキリスト教会と民衆宗教

研究課題名（英文）Christianity and popular religion in medieval and early modern Europe

研究代表者

甚野 尚志（JINNO TAKASHI）

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：90162825

研究成果の概要（和文）：

本科研プロジェクト「中近世ヨーロッパのキリスト教会と民衆宗教」では、対象の時代と地域を、中世のヨーロッパ世界のみならず、他の時代も含め、そしてヨーロッパ以外のキリスト教が浸透した地域にも視野を広げて、比較考察を行ったことに大きな特色があった。扱った時代は中世のみならず、近世も含め、地域は西欧のみならず、東欧・ロシア、ビザンツ、その他ヨーロッパ以外のキリスト教が浸透した地域（中南米、日本など）を考察の対象とすることで、我々のプロジェクトは、キリスト教の教会と民衆宗教の関係を、たんにヨーロッパ固有の問題としてではなく、キリスト教が受容された地域全体に共通する問題として世界的に考察することができた。その結果、これまでのヨーロッパ教会史の見取り図に、日本の研究者からの独自の視点を付け加えることができたといえよう。

研究成果の概要（英文）：

This project:Christianity and popular religion in medieval and early modern Europe has its Originality in comparing various areas and periods. We studied not only medieval period but also early modern period ,and not only west Europe but also east Europe,Russia,Byzanz, other areas where Christianity reached(for example,Central and South America,Japan).By this, our project could investigate the problem of popular religion as a common problem in the areas where Christianity influenced

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,700,000円	1,410,000円	6,110,000円
2008年度	5,000,000円	1,500,000円	6,500,000円
2009年度	2,800,000円	840,000円	3,640,000円
総計	12,500,000円	3,750,000円	16,250,000円

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：宗教史

キーワード：中世、近世、キリスト教、ヨーロッパ、民衆宗教、カトリック、プロテスタント、ビザンツ、ロシア

1. 研究開始当初の背景

これまでの我が国における研究をつぶさにみると、教会のエリート支配層による教会組織の形成の問題と、体制側からではなく民衆から湧出した民衆宗教の問題が、異次元の問題として捉えられる傾向があったことに鑑みて、このプロジェクトは企画された。このプロジェクト「中近世ヨーロッパのキリスト教会と民衆宗教」の科研共同研究を開始するにあたって、われわれの研究の趣旨は、次のようなものであった。

すなわち、我が国における中近世ヨーロッパのキリスト教会史研究で、制度史的研究と民衆宗教史的な研究とが、これまでそれぞれ別個の問題として扱われてきた傾向にあることを反省しつつ、そのような分離を乗り越え、この時代の宗教的な現象を総体的に把握する視点を提示しようとする趣旨である。これまでの我が国における研究をつぶさにみると、教会のエリート支配層による教会組織の形成・教区制、教皇権を頂点とする教会ヒエラルヒー、修道院の系列組織、教会裁判・教会法、告解制度、典礼など - の問題と、体制側からではなく民衆から湧出した宗教運動 - 兄弟団、信心会、巡礼、異端、神秘主義、民衆十字軍など - の問題が、異次元の問題として捉えられる傾向があったといえる。じっさい叙任権闘争、宗教改革といった教会史上の「大事件」については、教会制度と民衆宗教との関係について多くの研究があるものの、民衆宗教が中近世ヨーロッパのキリスト教会で、教会体制を支え補完する役割を果たしていた具体的な様相、あるいは両者のダイナミズム、そして教会組織の形成や変容の過程における民衆宗教の影響については、我が国において体系だった研究はまだ十分になされていない現状がある。

2. 研究の目的

このような背景の上で、われわれの研究の目標は以下のようなものであった。

つまり、我が国における中近世ヨーロッパのキリスト教会史研究で、制度史的研究と民衆宗教史的な研究とが、これまでそれぞれ別個の問題として扱われてきた傾向にあることを反省しつつ、そのような分離を乗り越え、この時代の宗教的な現象を総体的に把握する視点を提示しようとするのが研究の目的であった。

具体的には、民衆宗教が中近世ヨーロッパのキリスト教会で、教会体制を支え補完する

役割を果たしていた様相、あるいは両者のダイナミズム、そして教会組織の形成や変容の過程における民衆宗教の影響について研究することが目的として提示された。

3. 研究の方法

民衆宗教が中近世ヨーロッパのキリスト教会で、教会体制にとっていかなる役割を果たしたのか、また両者のダイナミズムによりどのような新しい教会組織が形成されたのか、という問いを念頭に置きながら、研究が遂行された。そして、このような問題意識にもとづいて、研究方法としては、キリスト教が浸透した各地域の類似の宗教現象の比較の方法がとられた。研究会は、つねに、複数の報告者によるシンポジウム形式をとるように意識された。

4. 研究成果

対象の時代と地域を広く取ったことにより、様々な比較の視点からの成果を上げることができた。扱った時代は、中世のみならず近世も含め、地域は西欧のみならず、東欧・ロシア、ビザンツ、その他ヨーロッパ以外のキリスト教が浸透した地域（中南米、日本など）も考察の対象とした。これにより我々のプロジェクトは、キリスト教の教会組織と民衆宗教との関係の問題を、たんにヨーロッパ固有の問題としてではなく、キリスト教が受容された地域全体に共通する問題として、世界的に考察することができた。

つまり、中近世のキリスト教会をめぐる問題を、たんに、カトリック、プロテスタント、ギリシア正教の対立という図式からではなく、キリスト教が浸透した歴史的社会的比較の視点から考察し、またヨーロッパ外の地域におけるキリスト教化の問題も視野に入れることで、中近世ヨーロッパ世界のキリスト教会の独自性を、キリスト教が浸透した歴史的社会的比較の視点から考察できたのが最大の成果である。

以上のような趣旨に沿って、科学研究費補助金の交付を受けた三年間に共同研究を遂行したが、科研研究会では、毎回一定のテーマを定め、複数の研究者に報告していただいた。それにより、中近世ヨーロッパ教会史の重要なテーマを十分に討議することができた。また本科研研究会は、「教会と社会」研究会 - 中近世のヨーロッパ - 」（“Ecclesia et Societas” Workshop、ウェブサイト www.es-ken.net）ともしばしば合同で研究会

を開催した。この「教会と社会」研究会は、科研代表者の甚野が2005年に発足させたヨーロッパ中近世史の研究会であるが、この研究会と合同で科研研究会を行うことで、多くの若手研究者、大学院生にもこの科研プロジェクトの成果は共有できた。

また、科研研究会では、科研メンバーが報告しただけではなく、本科研プロジェクトで扱う問題を専門とする、他の研究者にもゲストとして報告していただいた。さらに本科研プロジェクトの一環として、ドイツの中世教会史の第一人者であるフランツ・フェルテン教授(マインツ大学)を招聘できたことは大きな成果であった。フェルテン教授には、中世教会史にかかわるテーマで三回、講演を行ってもらい、また二回の大学院生向けセミナーもしていただいた。いずれも、内容的に大変充実したものであり、参加者は大きな知的刺激を受けることができた。このフェルテン教授の日本における講演は、甚野尚志編『中世ヨーロッパの教会と俗世』(山川レクチャーズ<6>、山川出版社、2010年5月刊行予定)として刊行される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

！甚野尚志、「十二世紀ルネサンスの精神

「十二世紀ルネサンス」を真に再考するために」、『西洋中世研究』、1号、19-29頁、2009年、12月、査読有

根占献一、「ルネサンス・ヒューマニズムの意義」とくにドイツとフランスの場合」、『早稲田大学地中海研究所紀要』、5号、25-33頁、2007年3月、査読無

根占献一、「カトリック復興期のヒューマニスト」フランチェスカ・セルドナーティ補遺」、『学習院女子大学紀要』11号、65-67頁、2009年、査読無

根占献一、「カトリック復興期のヒューマニスト」、『学習院女子大学紀要』10号、53-65頁、2008年、査読無

関哲行、「『地の果て』の聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラ」、『紫明』23号、8-12頁、2008年、査読無

関哲行、「中世イベリア像」、『歴史と地理』611号、36-39頁、2008年2月、査読無

櫻井康人、「4~13世紀の聖地巡礼にもみる

イスラーム・ムスリム観の変遷」、『ヨーロッパ文化史研究』9号、2008年、47-88頁

、査読無

小林功、「『篡奪皇帝』の栄光と失敗~ピザンツ皇帝バシレイオス1世の政治運営をめぐって~」、『史林』91巻3号、2008年、105-120頁、査読有

〔学会発表〕(計4件)

甚野尚志、「コンスタンツ公会議における公会議主義と教皇の至高権」、『法制史学会』、2009年4月、九州大学

甚野尚志、「十二世紀中葉における「教皇首位権」と教会合同の理念」ハーフェルベルクのアンセルムスの『対話』をめぐって」、『京都大学西洋史読書会』2009年大会、2009年11月3日

甚野尚志、「十二世紀知識人終末観と東西教会合同の理念」、『早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所』第二回研究会、2010年、1月9日、早稲田大学

櫻井康人、「フランク人支配下のムスリム」『聖地のシャイフたちの奇跡的な行い』を中心に」、『京都大学西洋史読書会大会』、2009年、11月3日

〔図書〕(計8件)

！根占献一、『ルネサンス精神への旅 - ジョアッキーノ・ダ・フィオーレからカッシーラーまで』創文社、2009年12月

甚野尚志、『十二世紀ルネサンスの精神』ソールズベリーのジョンの思想構造』知泉書館、2009年3月

関哲行、『旅する人びと』岩波書店、2009年2月

関哲行、『世界歴史大系スペイン史1』山川出版社、2008年7月

関哲行、『世界歴史大系スペイン史1』山川出版社、2008年7月

川村信三、『二十一世紀キリスト教読本』教友社、2008年

網野徹哉、『インカとスペイン-帝国の交錯』講談社、2008年

長谷川まゆ帆、『女・男・子どもの近代』

<世界史リブレット 89> 山川出版社、2007
年 12 月

6 . 研究組織

(1)研究代表者

甚野 尚志 Jinno Takashi
(早稲田大学文学学術院教授)
研究者番号：90162825

(2)研究分担者

根占 献一 Nejime Kenichi
(学習院女子大国際文化交流学部教授)
研究者番号：50208287

関 哲行 Seki Tetuyuki
(流通経済大学社会学部教授)
研究者番号：60212578

長谷川 まゆ帆 Hasegawa Mayuho
(東京大学大学院総合文化研究科准教授)
研究者番号：60162825

印出 忠夫 Inde Tadao
(聖心女子大学文学部准教授)
研究者番号：30232721

川村 信三 Kawamura Shinzo
(上智大学文学部准教授)
研究者番号：00317491

網野 徹哉 Amino Tetsuya
(東京大学大学院総合文化研究科准教授)
研究者番号：60212578

三浦 清美 Miura Kiyoharu
(電気通信大学電気通信学部准教授)
研究者番号：20272750

櫻井 康人 Sakurai Yasuto
(東北学院大学文学部准教授)
研究者番号：60382652

小林 功 Kobayashi Isao
(立命館大学文学部准教授)
研究者番号：40313580

中島 崇文 Nakajima Takafumi
(学習院女子大国際文化交流学部准教授)
研究者番号：90386798

古川 誠之 Furukawa Masayuki
(早稲田大学文学学術院助教)
研究者番号：10409617